

講義年月日	2003年3月12日 (水)
講演者	田邊 稔氏 (慶應義塾大学メディアセンター本部係主任)
テーマ	システムライブラリアンの現状と今後
講義内容	<p>1.自己紹介</p> <p>1998年4月に慶應義塾大学へ転職 (前職は某データ通信会社SE = 10年勤務)</p> <p>転職の動機: SEの多忙な生活 (MediaNets1999.10 SE残酷物語」参照)</p> <p>自由なシステム構築できない (制約が多い) 大学職員になった後輩の影響</p> <p>担当業務 図書館システムの統合管理 (5キャンパスすべて) システム担当者 = 3名</p> <p>2.慶應義塾大学職員になって</p> <p>・民間と大学の違い</p> <p>「コスト」意識が低い 改善策 依頼された仕事に見積りをつけている (1人月いくら)</p> <p>「納期」意識が低い 改善策 「できるだけ早く」という依頼方法を改めさせる</p> <p>3.21世紀の大学図書館</p> <p>「モデル (非来館型)」 = 「電子図書館」が当たり前</p> <p>ひと 単なる図書館員ではダメ どこへいっても通用する Information Professional (Info Pro)へ</p> <p>アウトソーシングが加速 ノウハウが拡散していく (取捨選択が必要)</p> <p>もの ILL & DDSの活性化 システムインフラと著作権の問題あり</p> <p>かね 共同事業 (私大連・早稲田・OCLC・RLIN)</p> <p>収益事業 (他大学の目録作成請負 / 業務コンサル・システムコンサル)</p> <p>4.ビジネスモデルとシステム化</p> <p>(1)システムに対する現状と対策</p> <p>現状: 業務の流れが整理されていない 無駄・不満が多い 機能を十分に使いこなせていない</p> <p>対策: ボトルネックの発見が重要 (システムありき)ではうまくいかない</p> <p>現行業務フローの整理 業務モデルの再構築 (BPR) システム化 評価とフィードバック</p> <p>(2)システムパッケージ</p> <p>・パッケージは決して安くはない</p> <p>・コア業務 = パッケージ 受入支払 = 自前 リスト = 自前</p> <p>・簡単なものは自前で作るくらいの気構えでやる</p> <p>5.求められる人材 (イケてる情報プロフェッショナル)</p> <p>コンテンツ作成能力 IT・ネットワーク技術力 デザイン技能 表現力</p> <p>マネージメント・コンサルティング ヒューマンネットワーク</p> <p>6.KOSMOS / KOSMOS ' (慶應義塾大学図書館システム)</p> <p>KOSMOS の特徴</p> <p>300万書誌データ 年間8万冊 (300冊 / 日) の整理 1業務ごとの分散システム ソフトウェアの構造を簡単にする 自己開発と委託開発のバランス</p> <p>KOSMOS ' 導入の目的</p> <p>webOPACの負荷解消 多言語対応 Z39.50サーバ KOSMOS への足場固め</p> <p>7.モチベーション</p> <p>・システムライブラリアンの評価 自己評価 現場スタッフ評価 利用者評価</p> <p>・システムライブラリアンのモチベーション維持 向上のために ビジョンの浸透と具体化</p> <p>経営トップのビジョン 図書館事業計画 担当部署の目標 個人の目標</p> <p>・モチベーションを維持 向上させるには</p> <p>進捗管理 品質管理 リスク管理 ノウハウのドキュメント化 評価とフォローアップ</p> <p>次への原動力 (モチベーション向上)となる</p>
用語	Z39.50 国際規格の情報検索プロトコル。
感想	民間企業の発想は、とても新鮮だった。特に「コスト」と「納期」の意識は、見習わなければならない。また、「work」ではなく「business」という発言はとても印象的だった。技術と人柄の両方を兼ね備えている田邊氏は、システムライブラリアンの理想であろう。
配付物	システムライブラリアンの現状と今後～モチベーション・マネージメントへのアプローチ」
備考	田邊稔 「システムライブラリアンの現状と今後 イケてる図書館員を目指して」『情報の科学と技術』特集:イケてる情報サービスプロフェッショナルを目指して、Vol.51, No.4, 2001, p.213 ~ 220.